

## 医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会の I F 記載要領 2008 に準拠して作成

## 気道潤滑去痰剤

## アンブロキシール塩酸塩錠15mg「日新」

Ambroxol Hydrochloride Tablets 15mg “NISSIN”

剤形	錠剤（素錠）
製剤の規制区分	該当しない
規格・含量	1錠中にアンブロキシール塩酸塩 15.0mg 含有
一般名	和名：アンブロキシール塩酸塩 洋名：Ambroxol Hydrochloride
製造販売承認年月日 薬価基準収載・ 発売年月日	製造販売承認年月日：2013年2月15日 薬価基準収載年月日：2013年6月21日 発売年月日：2013年8月
開発・製造販売 （輸入）・提携・ 販売会社名	製造販売元：日新製薬株式会社
医薬情報担当者の 連絡先	
問い合わせ窓口	日新製薬株式会社 安全管理部 TEL：023-655-2131 FAX：023-655-3419 医療関係者向けホームページ： <a href="http://www.yg-nissin.co.jp/">http://www.yg-nissin.co.jp/</a>

本 I F は 2013 年 6 月改訂の添付文書の記載に基づき作成した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器情報提供ホームページ <http://www.info.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

# I F 利用の手引きの概要

— 日本病院薬剤師会 —

## 1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和 63 年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第 2 小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、I F と略す）の位置付け並びに I F 記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成 10 年 9 月に日病薬学術第 3 小委員会において I F 記載要領の改訂が行われた。

更に 10 年が経過した現在、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成 20 年 9 月に日病薬医薬情報委員会において新たな I F 記載要領が策定された。

## 2. I F とは

I F は「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等は I F の記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供された I F は、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

### 【I F の様式】

- ①規格は A 4 版、横書きとし、原則として 9 ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②I F 記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「I F 利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2 頁にまとめる。

### 【I F の作成】

- ①I F は原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②I F に記載する項目及び配列は日病薬が策定した I F 記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完すると I F の主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領 2008」（以下、「I F 記載要領 2008」と略す）により作成された I F は、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

### 【I F の発行】

- ①「I F 記載要領 2008」は、平成 21 年 4 月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「I F 記載要領 2008」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合には I F が改訂される。

### 3. I Fの利用にあたって

「I F記載要領 2008」においては、従来の主にMRによる紙媒体での提供に替え、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則で、医療機関でのIT環境によっては必要に応じてMRに印刷物での提供を依頼してもよいこととした。

電子媒体のI Fについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、I Fの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やI F作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、I Fの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、I Fが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、I Fの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

### 4. 利用に際しての留意点

I Fを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。I Fは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、I Fがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2008年9月)

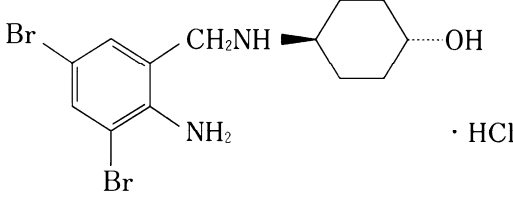
# 目次

<b>I. 概要に関する項目</b>		<b>Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目</b>	
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	1 2
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）	1 2
<b>II. 名称に関する項目</b>		3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	1 2
1. 販売名	2	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	1 2
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	1 2
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び 処置方法	1 2
4. 分子式及び分子量	2	7. 相互作用	1 2
5. 化学名（命名法）	2	8. 副作用	1 2
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	2	9. 高齢者への投与	1 3
7. CAS登録番号	2	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	1 3
<b>III. 有効成分に関する項目</b>		11. 小児等への投与	1 3
1. 物理化学的性質	3	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	1 3
2. 有効成分の各種条件下における安定性	3	13. 過量投与	1 3
3. 有効成分の確認試験法	3	14. 適用上の注意	1 3
4. 有効成分の定量法	3	15. その他の注意	1 3
<b>IV. 製剤に関する項目</b>		16. その他	1 3
1. 剤形	4	<b>Ⅸ. 非臨床試験に関する項目</b>	
2. 製剤の組成	4	1. 薬理試験	1 4
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	4	2. 毒性試験	1 4
4. 製剤の各種条件下における安定性	4	<b>X. 管理的事項に関する項目</b>	
5. 調製法及び溶解後の安定性	5	1. 規制区分	1 5
6. 他剤との配合変化（物理化学的変化）	5	2. 有効期間又は使用期限	1 5
7. 溶出性	6	3. 貯法・保存条件	1 5
8. 生物学的試験法	7	4. 薬剤取扱い上の注意点	1 5
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	7	5. 承認条件等	1 5
10. 製剤中の有効成分の定量法	7	6. 包装	1 5
11. 力価	7	7. 容器の材質	1 5
12. 混入する可能性のある夾雑物	7	8. 同一成分・同効薬	1 5
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	7	9. 国際誕生年月日	1 5
14. その他	7	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	1 5
<b>V. 治療に関する項目</b>		11. 薬価基準収載年月日	1 5
1. 効能又は効果	8	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更 追加等の年月日及びその内容	1 5
2. 用法及び用量	8	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日 及びその内容	1 6
3. 臨床成績	8	14. 再審査期間	1 6
<b>VI. 薬効薬理に関する項目</b>		15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	1 6
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	9	16. 各種コード	1 6
2. 薬理作用	9	17. 保険給付上の注意	1 6
<b>VII. 薬物動態に関する項目</b>		<b>XI. 文献</b>	
1. 血中濃度の推移・測定法	1 0	1. 引用文献	1 6
2. 薬物速度論的パラメータ	1 1	2. その他の参考文献	1 6
3. 吸収	1 1	<b>XII. 参考資料</b>	
4. 分布	1 1	1. 主な外国での発売状況	1 6
5. 代謝	1 1	2. 海外における臨床支援情報	1 6
6. 排泄	1 1	<b>XIII. 備考</b>	
7. 透析等による除去率	1 1	その他の関連資料	1 6

## I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯	<p>アンブロキシール塩酸塩は、ドイツでブロムヘキシシン塩酸塩の代謝研究の過程において発見された去痰剤である。</p> <p>日新製薬(株)は、「セルマキール錠」を後発医薬品として企画・開発し、薬発第698号(昭和55年5月30日)に基づき、規格及び試験方法を設定、加速試験、生物学的同等性試験を実施し、1992年6月に承認を取得し、1994年7月より製造・販売を行っている。</p> <p>なお、医療事故防止対策に基づき、2009年7月に販売名を「セルマキール錠」から「セルマキール錠 15mg」に変更し、2009年9月に薬価収載された。</p> <p>更に、2013年2月に販売名を『アンブロキシール塩酸塩錠 15mg「日新」』に変更し、2013年6月に薬価収載された。</p>
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	<p>アンブロキシール塩酸塩は、荒れている肺胞から中心気道に至る気道表面を潤滑にさせ、痰と気道壁との粘着性を減少させることにより、喀出促進作用を示す。</p> <p>重大な副作用として、ショック、アナフィラキシー様症状、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)があらわれることがある。</p>

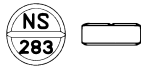
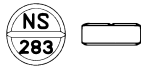
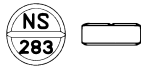
## II. 名称に関する項目

<p>1. 販売名            (1) 和名            (2) 洋名            (3) 名称の由来</p>	<p>アンブロキソール塩酸塩錠 15mg 「日新」            Ambroxol Hydrochloride Tablets 15mg “NISSIN”            本剤の一般名「アンブロキソール塩酸塩」に由来する。</p>
<p>2. 一般名            (1) 和名 (命名法)            (2) 洋名 (命名法)            (3) ステム</p>	<p>アンブロキソール塩酸塩 (JAN)            Ambroxol Hydrochloride (JAN)            不明</p>
<p>3. 構造式又は示性式</p>	
<p>4. 分子式及び分子量</p>	<p>分子式：C<sub>13</sub>H<sub>18</sub>Br<sub>2</sub>N<sub>2</sub>O · HCl      分子量：414.56</p>
<p>5. 化学名 (命名法)</p>	<p><i>trans</i>-4-[(2-amino-3,5-dibromobenzyl)amino]cyclohexanol hydrochloride (IUPAC)</p>
<p>6. 慣用名、別名、略号、記号番号</p>	<p>別名：塩酸アンブロキソール</p>
<p>7. CAS登録番号</p>	<p>23828-29-4 (Ambroxol Hydrochloride)            18683-91-5 (Ambroxol)</p>

### Ⅲ. 有効成分に関する項目

<p>1. 物理化学的性質</p> <p>(1) 外観・性状</p> <p>(2) 溶解性</p> <p>(3) 吸湿性</p> <p>(4) 融点(分解点)、沸点、凝固点</p> <p>(5) 酸塩基解離定数</p> <p>(6) 分配係数</p> <p>(7) その他の主な示性値</p>	<p>白色の結晶性の粉末で、においはなく、わずかに特異な味がある。</p> <p>メタノールにやや溶けやすく、水又はエタノール(99.5)にやや溶けにくく、酢酸(100)に溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。</p> <p>該当資料なし</p> <p>融点：約 235℃ (分解)</p> <p><math>pK_{a1}</math>：-0.69 (芳香族アミノ基、吸光度法)</p> <p><math>pK_{a2}</math>：8.03 (第二アミノ基、滴定法)、8.17 (吸光度法)</p> <p>該当資料なし</p> <p>pH：本品 0.10g を水 10mL に溶かした液の pH は 4.0～6.0 である。</p>
<p>2. 有効成分の各種条件下における安定性</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>3. 有効成分の確認試験法</p>	<p>日本薬局方外医薬品規格アンブロキシソール塩酸塩の確認試験法による。</p> <p>(1) 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液による呈色反応</p> <p>(2) 紫外可視吸光度測定法による吸収スペクトルの測定</p> <p>(3) 赤外吸収スペクトル測定法 (臭化カリウム錠剤法)</p> <p>(4) 塩化物の定性反応</p> <p>(5) 臭化物の定性反応</p>
<p>4. 有効成分の定量法</p>	<p>日本薬局方外医薬品規格アンブロキシソール塩酸塩の定量法による。</p> <p>0.1mol/L 過塩素酸による滴定 (電位差滴定法)</p>

#### IV. 製剤に関する項目

<p>1. 剤形 (1) 剤形の区別、規格及び性状</p> <p>(2) 製剤の物性 (3) 識別コード (4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等</p>	<table border="1" data-bbox="491 264 1425 528"> <tr> <td>性状</td> <td colspan="3">白色の片面割線入りの素錠</td> </tr> <tr> <td>区別</td> <td colspan="3">錠剤（素錠）</td> </tr> <tr> <td>識別コード</td> <td colspan="3">NS283</td> </tr> <tr> <td>大きさ</td> <td>錠径：7.0mm</td> <td>錠厚：2.4mm</td> <td>重量：120mg</td> </tr> <tr> <td>外形</td> <td colspan="3">  </td> </tr> </table> <p>該当資料なし 錠剤本体 NS283 該当しない</p>	性状	白色の片面割線入りの素錠			区別	錠剤（素錠）			識別コード	NS283			大きさ	錠径：7.0mm	錠厚：2.4mm	重量：120mg	外形																																													
性状	白色の片面割線入りの素錠																																																														
区別	錠剤（素錠）																																																														
識別コード	NS283																																																														
大きさ	錠径：7.0mm	錠厚：2.4mm	重量：120mg																																																												
外形																																																															
<p>2. 製剤の組成 (1) 有効成分（活性成分）の含量 (2) 添加物 (3) その他</p>	<p>1 錠中にアムプロキシソール塩酸塩 15.0mg 含有</p> <p>結晶セルロース、乳糖水和物、ヒドロキシプロピルセルロース、部分アルファ化デンプン、カルメロースカルシウム、ステアリン酸マグネシウム、タルク</p> <p>該当しない</p>																																																														
<p>3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意</p>	<p>該当しない</p>																																																														
<p>4. 製剤の各種条件下における安定性<sup>1)</sup></p>	<p>アムプロキシソール塩酸塩錠 15mg「日新」は、最終包装製品を用いた加速試験（40℃、相対湿度 75%、6 ヶ月）の結果、遮光保存において 3 年間安定であることが推測された。また、最終包装製品を用いた長期保存試験（遮光保存、3 年）の結果、外観及び含量等は規格の範囲内であり、遮光保存における 3 年間の安定性が確認された。</p> <p><b>加速・苛酷試験</b> 試験条件： (1) 高温高湿：最終包装製品（PTP 包装し、紙箱に入れたもの）の状態、40±1℃、75±5%R.H. (2) 蛍光灯照射下：PTP 包装の状態、1000±150lx</p> <table border="1" data-bbox="491 1570 1425 2056"> <thead> <tr> <th>項目及び規格</th> <th>条件</th> <th>開始時</th> <th>1 ヶ月後</th> <th>3 ヶ月後</th> <th>6 ヶ月後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">性状 (白色の片面割線入り裸錠)</td> <td>(1)</td> <td>白色の片面割線入り裸錠</td> <td>白色の片面割線入り裸錠</td> <td>白色の片面割線入り裸錠</td> <td>白色の片面割線入り裸錠</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>白色の片面割線入り裸錠</td> <td>錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)</td> <td>錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)</td> <td>錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">確認試験</td> <td rowspan="2">(1) p-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液による呈色反応</td> <td>(1)</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(2) 塩化物の定性反応(2)</td> <td>(1)</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(3) 臭化物の定性反応(1)</td> <td>(1)</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">(4) 紫外可視吸光度測定法</td> <td>(1)</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> <td>適合</td> </tr> </tbody> </table>	項目及び規格	条件	開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後	性状 (白色の片面割線入り裸錠)	(1)	白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠	(2)	白色の片面割線入り裸錠	錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)	錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)	錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)	確認試験	(1) p-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液による呈色反応	(1)	適合	適合	適合	適合	(2)	適合	適合	適合	適合	(2) 塩化物の定性反応(2)	(1)	適合	適合	適合	適合	(2)	適合	適合	適合	適合	(3) 臭化物の定性反応(1)	(1)	適合	適合	適合	適合	(2)	適合	適合	適合	適合	(4) 紫外可視吸光度測定法	(1)	適合	適合	適合	適合	(2)	適合	適合	適合	適合
項目及び規格	条件	開始時	1 ヶ月後	3 ヶ月後	6 ヶ月後																																																										
性状 (白色の片面割線入り裸錠)	(1)	白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠																																																										
	(2)	白色の片面割線入り裸錠	錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)	錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)	錠剤表面に僅かに着色が認められた(微黄白色)																																																										
確認試験	(1) p-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液による呈色反応	(1)	適合	適合	適合	適合																																																									
		(2)	適合	適合	適合	適合																																																									
	(2) 塩化物の定性反応(2)	(1)	適合	適合	適合	適合																																																									
		(2)	適合	適合	適合	適合																																																									
	(3) 臭化物の定性反応(1)	(1)	適合	適合	適合	適合																																																									
		(2)	適合	適合	適合	適合																																																									
	(4) 紫外可視吸光度測定法	(1)	適合	適合	適合	適合																																																									
		(2)	適合	適合	適合	適合																																																									



項目及び規格	条件	開始時	1ヵ月後	3ヵ月後	6ヵ月後
崩壊性(分) (水、30分以内)	(1)	1~2	1~2	1~2	1~2
	(2)	1~2	1~2	1~2	1~2
重量偏差試験	(1)	適合	適合	適合	適合
	(2)	適合	適合	適合	適合
含量(%) (93.0~107.0)	(1)	101.0	99.6	99.0	98.1
	(2)	101.0	99.4	98.5	98.4

**長期保存試験**

試験条件：最終包装製品（P T P包装し、紙箱に入れたもの）の状態で、遮光保存

項目及び規格		開始時	1年後	2年後	3年後
性状 (白色の片面割線入り裸錠)		白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠	白色の片面割線入り裸錠
確認試験	(1) 4-ジメチルアミノピリジン アルビトール試液による 呈色反応	適合	—	—	適合
	(2) 塩化物の定性反応 (2)	適合	—	—	適合
	(3) 臭化物の定性反応 (1)	適合	—	—	適合
	(4) 紫外可視吸光度測定法	適合	—	—	適合
溶出性(%) (水、20分、80%以上)		90~94	84~94	88~95	84~94
質量偏差試験		適合	—	—	適合
摩損度 4分後：0.8%以下 10分後：1.0%以下		適合	—	—	適合
硬度(kgf)(参考値)		9~12	6~8	6~8	5~6
含量(%) (93.0~107.0)		98.6	97.7	98.0	98.7

5. 調製法及び溶解後の安定性

該当しない

6. 他剤との配合変化  
(物理化学的変化)

該当しない

## 7. 溶出性<sup>2)</sup>

アンブロキソール塩酸塩錠 15mg「日新」の溶出挙動における類似性  
後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン：平成9年12月22日付医薬  
審第487号

試験方法：日本薬局方溶出試験法のパドル法

試験条件：

試験液量：900mL 温度：37±0.5℃

試験液：pH1.2 日本薬局方崩壊試験第1液

pH4.0 0.05mol/L 酢酸・酢酸ナトリウム緩衝液

pH6.8 日本薬局方試薬・試液のリン酸塩緩衝液 (1→2)

水 日本薬局方精製水

回転数：50回転

試験時間：

pH1.2 では2時間、その他の試験液では6時間とする。ただし、標準製剤の平均溶出率が85%を越えた時点で終了とすることができる。

判定基準：

ガイドラインの判定基準のうち、次の項目に従って同等性を判定した。

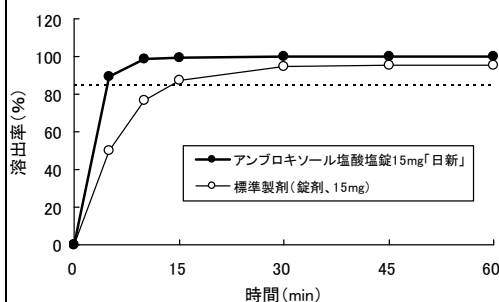
標準製剤が15分以内に平均85%以上溶出する場合

試験製剤は15分以内に平均85%以上溶出する。又は、標準製剤の平均溶出率が85%付近の適当な時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にある。

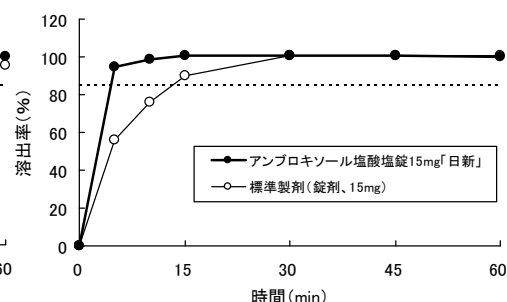
結果：

いずれの場合においても溶出挙動は同等であると判定された。

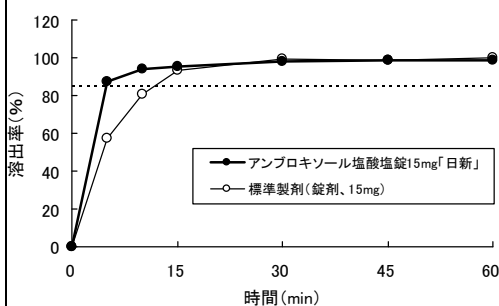
pH1.2 50回転



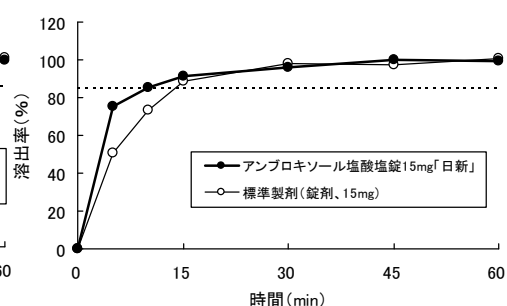
pH4.0 50回転



pH6.8 50回転



水 50回転



	<p>表：溶出挙動における同等性（試験製剤及び標準製剤の平均溶出率の比較）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3">試験条件</th> <th>標準製剤 (錠剤、15mg)</th> <th>アムロキソール塩 酸塩錠 15mg「日新」</th> <th rowspan="2">判定</th> </tr> <tr> <th>回転数</th> <th>試験液</th> <th>採取時間</th> <th>平均溶出率%</th> <th>平均溶出率%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">50 回転</td> <td>pH1.2</td> <td>15 分</td> <td>87.2</td> <td>99.6</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>pH4.0</td> <td>15 分</td> <td>89.8</td> <td>100.4</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>pH6.8</td> <td>15 分</td> <td>93.6</td> <td>95.3</td> <td>適合</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>15 分</td> <td>88.7</td> <td>91.1</td> <td>適合</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">(n = 6)</p> <p>アムロキソール塩酸塩錠 15mg「日新」は、日本薬局方外医薬品規格第 3 部に定められた塩酸アムロキソール 15mg 錠の溶出規格に適合していることが確認されている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>試験液</th> <th>回転数</th> <th>規定時間</th> <th>溶出規格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>水</td> <td>50 回転</td> <td>20 分</td> <td>80%以上</td> </tr> </tbody> </table>	試験条件			標準製剤 (錠剤、15mg)	アムロキソール塩 酸塩錠 15mg「日新」	判定	回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%	50 回転	pH1.2	15 分	87.2	99.6	適合	pH4.0	15 分	89.8	100.4	適合	pH6.8	15 分	93.6	95.3	適合	水	15 分	88.7	91.1	適合	試験液	回転数	規定時間	溶出規格	水	50 回転	20 分	80%以上
試験条件			標準製剤 (錠剤、15mg)	アムロキソール塩 酸塩錠 15mg「日新」	判定																																				
回転数	試験液	採取時間	平均溶出率%	平均溶出率%																																					
50 回転	pH1.2	15 分	87.2	99.6	適合																																				
	pH4.0	15 分	89.8	100.4	適合																																				
	pH6.8	15 分	93.6	95.3	適合																																				
	水	15 分	88.7	91.1	適合																																				
試験液	回転数	規定時間	溶出規格																																						
水	50 回転	20 分	80%以上																																						
8. 生物学的試験法	該当しない																																								
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	(1) 4-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液による呈色反応 (2) 塩化物の定性反応(2) (3) 臭化物の定性反応(1) (4) 紫外可視吸光度測定法による吸収スペクトルの測定																																								
10. 製剤中の有効成分の定量法	紫外可視吸光度測定法																																								
11. 力価	本剤は力価表示に該当しない																																								
12. 混入する可能性のある夾雑物	該当資料なし																																								
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報	該当しない																																								
14. その他	該当しない																																								

## V. 治療に関する項目

<p>1. 効能又は効果</p>	<p>○下記疾患の去痰          急性気管支炎、気管支喘息、慢性気管支炎、気管支拡張症、肺結核、塵肺症、手術後の喀痰喀出困難          ○慢性副鼻腔炎の排膿</p>
<p>2. 用法及び用量</p>	<p>通常、成人には、1回1錠（アムプロキシソール塩酸塩として15.0mg）を1日3回経口投与する。          なお、年齢・症状により適宜増減する。</p>
<p>3. 臨床成績</p> <p>(1) 臨床データパッケージ（2009年4月以降承認品目）</p> <p>(2) 臨床効果</p> <p>(3) 臨床薬理試験：忍容性試験</p> <p>(4) 探索的試験：用量反応探索試験</p> <p>(5) 検証的試験</p> <p>1) 無作為化並行用量反応試験</p> <p>2) 比較試験</p> <p>3) 安全性試験</p> <p>4) 患者・病態別試験</p> <p>(6) 治療的使用</p> <p>1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）</p> <p>2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要</p>	<p>該当資料なし</p>

## VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群	カルボシステイン、L-エチルシステイン塩酸塩、L-メチルシステイン塩酸塩、ブロムヘキシン塩酸塩等
2. 薬理作用 (1) 作用部位・作用機序  (2) 薬効を裏付ける試験成績  (3) 作用発現時間・持続時間	消化管より吸収され、気道及び肺に作用する。気道の分泌亢進と線毛運動亢進、さらに気道粘膜組織機能の修復化、肺表面活性物質（サーファクタント）の分泌促進により、気道壁を潤滑にして粘液の移動、痰の喀出を促す。  該当資料なし  該当資料なし

## VII. 薬物動態に関する項目

### 1. 血中濃度の推移・測定法

- (1) 治療上有効な血中濃度
- (2) 最高血中濃度到達時間
- (3) 臨床試験で確認された血中濃度<sup>2)</sup>

該当資料なし

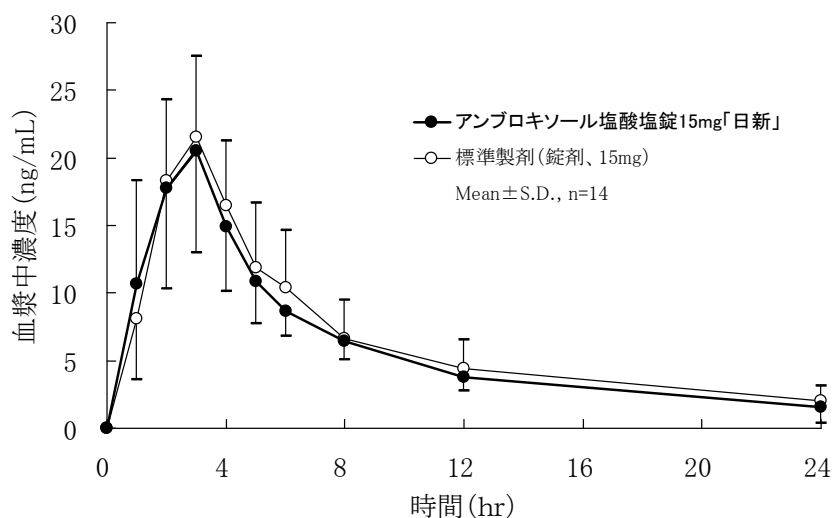
「VII. 薬物動態に関する項目 1. (3) 臨床試験で確認された血中濃度」を参照

生物学的同等性に関する試験基準：昭和 55 年 5 月 30 日付薬審第 718 号

アンブロキシソール塩酸塩錠 15mg「日新」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ 1 錠（アンブロキシソール塩酸塩として 15mg）健康成人男子に絶食時単回経口投与して血漿中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ（AUC、Cmax）について統計解析を行った結果、両製剤の生物学的同等性が確認された。

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	AUC <sub>0-24</sub> (ng・hr/mL)	Cmax (ng/mL)	Tmax (hr)	T <sub>1/2</sub> (hr)
アンブロキシソール塩酸塩錠 15mg「日新」	146.96 ± 33.61	21.71 ± 8.38	2.79 ± 0.43	6.17 ± 2.05
標準製剤 (錠剤、15mg)	158.88 ± 48.66	23.18 ± 5.96	2.79 ± 0.58	6.31 ± 1.63

(Mean ± S. D., n=14)



血漿中濃度並びに AUC、Cmax 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

- (4) 中毒域
- (5) 食事・併用薬の影響
- (6) 母集団（ポピュレーション）解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

該当資料なし

該当資料なし

<p>2. 薬物速度論的パラメータ</p> <p>(1) コンパートメントモデル</p> <p>(2) 吸収速度定数</p> <p>(3) バイオアベイラビリティ</p> <p>(4) 消失速度定数</p> <p>(5) クリアランス</p> <p>(6) 分布容積</p> <p>(7) 血漿蛋白結合率</p>	<p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>「Ⅶ. 薬物動態に関する項目 1. (3) 臨床試験で確認された血中濃度」を参照</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p>
<p>3. 吸収</p>	<p>吸収部位：消化管</p>
<p>4. 分布</p> <p>(1) 血液－脳関門通過性</p> <p>(2) 血液－胎盤関門通過性</p> <p>(3) 乳汁への移行性</p> <p>(4) 髄液への移行性</p> <p>(5) その他の組織への移行性</p>	<p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p> <p>「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与(2)」を参照</p> <p>該当資料なし</p> <p>該当資料なし</p>
<p>5. 代謝</p> <p>(1) 代謝部位及び代謝経路</p> <p>(2) 代謝に関与する酵素 (CYP450 等) の分子種</p> <p>(3) 初回通過効果の有無及びその割合</p> <p>(4) 代謝物の活性の有無及び比率</p> <p>(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>6. 排泄</p> <p>(1) 排泄部位及び経路</p> <p>(2) 排泄率</p> <p>(3) 排泄速度</p>	<p>該当資料なし</p>
<p>7. 透析等による除去率</p>	<p>該当資料なし</p>

## VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由	該当記載事項なし										
2. 禁忌内容とその理由 (原則禁忌を含む)	次の患者には投与しないこと 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者										
3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	該当しない										
4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	該当しない										
5. 慎重投与内容とその理由	該当記載事項なし										
6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	該当記載事項なし										
7. 相互作用 (1) 併用禁忌とその理由 (2) 併用注意とその理由	該当記載事項なし										
8. 副作用 (1) 副作用の概要  (2) 重大な副作用と初期症状  (3) その他の副作用	<p>本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。</p> <p>(頻度不明)</p> <p>(1) ショック、アナフィラキシー様症状：ショック、アナフィラキシー様症状（発疹、顔面浮腫、呼吸困難、血圧低下等）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>(2) 皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）：皮膚粘膜眼症候群（Stevens-Johnson 症候群）があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p> <p>以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">頻 度 不 明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 15%;">消化器</td> <td>胃不快感、胃痛、腹部膨満感、腹痛、下痢、嘔気、嘔吐、便秘、食思不振、消化不良（胃部膨満感、胸やけ等）</td> </tr> <tr> <td>過敏症<sup>注)</sup></td> <td>発疹、蕁麻疹、蕁麻疹様紅斑、そう痒、血管浮腫（顔面浮腫、眼瞼浮腫、口唇浮腫等）</td> </tr> <tr> <td>肝 臓</td> <td>肝機能障害（AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇等）</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>口内しびれ感、上肢のしびれ感、めまい</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) このような症状があらわれた場合には、投与を中止すること。</p>	頻 度 不 明		消化器	胃不快感、胃痛、腹部膨満感、腹痛、下痢、嘔気、嘔吐、便秘、食思不振、消化不良（胃部膨満感、胸やけ等）	過敏症 <sup>注)</sup>	発疹、蕁麻疹、蕁麻疹様紅斑、そう痒、血管浮腫（顔面浮腫、眼瞼浮腫、口唇浮腫等）	肝 臓	肝機能障害（AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇等）	その他	口内しびれ感、上肢のしびれ感、めまい
頻 度 不 明											
消化器	胃不快感、胃痛、腹部膨満感、腹痛、下痢、嘔気、嘔吐、便秘、食思不振、消化不良（胃部膨満感、胸やけ等）										
過敏症 <sup>注)</sup>	発疹、蕁麻疹、蕁麻疹様紅斑、そう痒、血管浮腫（顔面浮腫、眼瞼浮腫、口唇浮腫等）										
肝 臓	肝機能障害（AST (GOT) 上昇、ALT (GPT) 上昇等）										
その他	口内しびれ感、上肢のしびれ感、めまい										



(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧	該当資料なし
(5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度	該当資料なし
(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法	本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
9. 高齢者への投与	一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。
10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	(1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。] (2) 授乳中の婦人には本剤投与中は授乳を避けさせること。[動物実験（ラット）で母乳中へ移行することが報告されている。]
11. 小児等への投与	該当記載事項なし
12. 臨床検査結果に及ぼす影響	該当記載事項なし
13. 過量投与	該当記載事項なし
14. 適用上の注意	薬剤交付時：P T P包装の薬剤はP T Pシートから取り出して服用するよう指導すること（P T Pシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている）。
15. その他の注意	該当記載事項なし
16. その他	該当しない

## Ⅸ. 非臨床試験に関する項目

<p>1. 薬理試験 (1) 薬効薬理試験     (「Ⅵ. 薬効薬理に関する項目」参照) (2) 副次的薬理試験 (3) 安全性薬理試験 (4) その他の薬理試験</p>	該当資料なし
<p>2. 毒性試験 (1) 単回投与毒性試験 (2) 反復投与毒性試験 (3) 生殖発生毒性試験 (4) その他の特殊毒性</p>	該当資料なし

## X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分	製 剤：該当しない 有効成分：該当しない
2. 有効期間又は使用期限	使用期限：3年（安定性試験結果に基づく）
3. 貯法・保存条件	遮光保存
4. 薬剤取扱い上の注意点 (1) 薬局での取り扱いについて (2) 薬剤交付時の注意（患者等に留意すべき必須事項等）	特になし  「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 14. 適用上の注意」を参照
5. 承認条件等	該当しない
6. 包装	P T P包装：100錠、1000錠 バ ラ包装：1000錠
7. 容器の材質	【P T P製品】 P T P包装：ポリ塩化ビニル、アルミニウム 化 粧 箱：紙 【バラ製品】 袋：ポリエチレンラミネートアルミニウム 缶：ブリキ
8. 同一成分・同効薬	同一成分薬：ムコソルバン錠 15mg（帝人ファーマ） 同 効 薬：カルボシステイン、L-エチルシステイン塩酸塩、L-メチルシステイン塩酸塩、ブロムヘキシシン塩酸塩等
9. 国際誕生年月日	不明
10. 製造販売承認年月日及び承認番号	製造販売承認年月日：2013年2月15日（販売名変更による） 承認番号：22500AMX00603000  旧販売名：セルマキール錠 15mg 2009年7月1日（販売名変更による） 旧販売名：セルマキール錠 1992年6月13日
11. 薬価基準収載年月日	2013年6月21日  旧販売名：セルマキール錠 15mg 2009年9月25日 （経過措置期間終了2014年3月31日） 旧販売名：セルマキール錠 1994年7月8日 （経過措置期間終了2010年6月30日）
12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	1994年12月26日付「効能・効果」の変更（「慢性副鼻腔炎の排膿」の追加）

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	該当しない								
14. 再審査期間	該当しない								
15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	本剤は投薬期間に関する制限は定められていない。								
16. 各種コード	<table border="1"> <thead> <tr> <th>販売名</th> <th>HOT 番号 (9桁)</th> <th>厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード</th> <th>レセプト 電算コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アンブロキソール塩酸塩錠 15mg「日新」</td> <td>103894137</td> <td>2239001F1742</td> <td>620389404</td> </tr> </tbody> </table>	販売名	HOT 番号 (9桁)	厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	アンブロキソール塩酸塩錠 15mg「日新」	103894137	2239001F1742	620389404
販売名	HOT 番号 (9桁)	厚生労働省 薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード						
アンブロキソール塩酸塩錠 15mg「日新」	103894137	2239001F1742	620389404						
17. 保険給付上の注意	本剤は保険診療上の後発医薬品である。								

## XI. 文献

1. 引用文献	1) 日新製薬株式会社 社内資料 (安定性) 2) 日新製薬株式会社 社内資料 (生物学的同等性)
2. その他の参考文献	該当資料なし

## XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況	該当資料なし
2. 海外における臨床支援情報	該当資料なし

## XIII. 備考

その他の関連資料	JANコード 100錠PTP : 4987447283219 1000錠PTP : 4987447283233 1000錠バラ : 4987447283264
----------	--